

「スポーツリエゾン京都ワーキンググループ」からの報告
 「京都ハンナリーズ」とのモデル事業実施結果について

1 モデル事業の趣旨

スポーツイベントを通じて、スポーツ団体や、環境・福祉・教育などスポーツとは異なる分野の団体、地域団体などが相互につながる（協力・連携する）ことにより、活動の領域の広がり、また新たな効果を発揮することなどを明らかにする。

2 モデル事業の概要

(1) 実施日時

平成27年12月13日（日）午前10時～午後5時

※試合は午後2時～午後4時

(2) 概要

- ・京都ハンナリーズのホーム試合でのごみ分別の取組とごみ減量の啓発
- ・はんなり広場でのごみ問題クイズとコラボしたフリースローゲーム

(3) 実施主体

- ・京都ハンナリーズ
- ・スポーツリエゾン京都ワーキンググループ

(4) 協力・連携団体等

- ・龍谷大学スポーツサイエンスコース・スポーツマネジメント研究室の学生
- ・京都光華女子大学の環境問題を学ぶ学生
- ・高瀬川開削400周年記念事業会議のメンバー
- ・京都市ごみ減量推進会議普及啓発実行委員会中田委員長

3 モデル事業実施の結果

(1) 良かった点

- ・「スポーツ」と「環境」という、普段は接点のない団体が協力してイベントを実施することができた。
- ・これまでスポーツに興味のなかった学生が、今回のイベントを通して、プロスポーツに興味を持つようになった。
- ・ペットボトルのラベルはがし等、大半の観客の方が協力してくれた。
- ・はんなり広場のごみ問題クイズとコラボしたフリースローゲームでは、多くの子どもたちの参加してくれ、ごみ問題クイズに楽しみながら取り組んでいた。

(2) 課題

- ・スポーツリエゾン京都にしても、環境啓発にしても、一度のイベントで観客の皆さんに認知してもらうことは難しい。継続しての実施が不可欠である。また、スポーツリエゾンのロゴや説明が書かれた看板の設置が望ましい。
- ・団体間の調整役を誰が担うかが課題である。
- ・他のボランティアとの協力を図る必要がある（ボランティア団体「sky」等）

- 今後の活動について、広報の検討をする必要がある。

(3) 京都ハンナリーズからの御意見

- 試合中にゴミ袋を交換しているスタッフが、試合後は交換の対応ができないためいつもゴミが溢れ返っている。今回のモデル事業を通じて、退館導線の誘導の役割も含めてスタッフを立たせる必要があるということが確認でき、次回より対応することになった。
- 12月の事業では、残念ながら来場者自らが分別するまでには至らなかつたが、当社でゴミの状況を確認でき、対策を取るところまで前進できたことは良かった。
- これまで社内でゴミについて話をすることもなかつたが、今回の事業の結果運営スタッフが意識を持つようになり、内部的に改善できたと感じている。
- これまで“チーム”としてあまり接点がなかつた団体と今回のイベントを通じてつながることができ、今後も関係を継続できそうである。

4 モデル事業の実施結果をうけて

(1) スポーツリエゾン京都の中心となる組織のあり方について

→ 繼続してイベントを実施する中で、スポーツリエゾン京都の核となる組織ができると考えられる。

(2) 多様な主体による情報共有と各組織間の調整・協力・連携の方法について

→ ひとつのサイトを通じての情報共有。(たとえば、平成28年に構築予定の本市情報サイト「スポーツウェブ京都」の活用等)

(3) スポーツボランティアの組織化と運営方法について

→ まずは、スポーツリエゾン京都について、基盤作りを行うことが大切である。活動を進めるにあたり、多岐にわたる団体と連携し、しばらくは、それぞれの団体から募集をする、あるいは京都市市民活動総合センター等と連携を行う。

(4) スポーツリエゾン京都の今後について

→ 平成28年度以降も引き続きワーキンググループを開催し、他のプロスポーツを含めた協同事業を通して、スポーツリエゾン京都の基盤作りを行う。

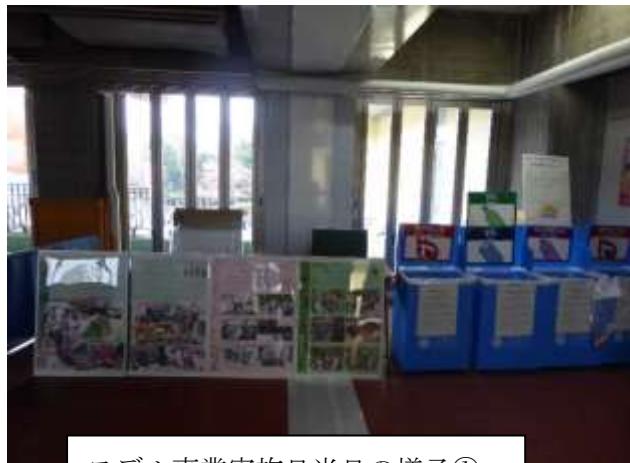
(参考) 当日のモデル事業の様子



平成 27 年 10 月 10 日のゴミ箱



平成 27 年 12 月 13 日のゴミ箱（モデル事業実施日）



モデル事業実施日当日の様子①



モデル事業実施日当日の様子②



モデル事業実施日当日の様子③



はんなり広場でのごみ問題クイズとコラボしたフリースローゲーム